

室戸天然杉群

段ノ谷山

地蔵峠

かつてこの峠には天然の大杉が天に向かって生い茂り、その数は何百本、何千本もあり、千本峠とも呼ばれていた。天保三年(1832)地蔵がまつられてから地蔵峠と呼ばれるようになった。

スマートで男前地蔵

アカガシの広場

野根山街道

四郎ヶ野峠

岩佐の関所

地蔵峠

兄弟杉
木化杉

海が木たちの
すきまにちらりと
みえる

ソウ杉

庭園みたいな
苔あした風景

冬は空が
開ける

ここは太古、海底で
つくられた大地。
ここは太古、海の
底だった。

平成23年に室戸市全体が世界
ジオパークとして認定され、この
エリアは「大地と生態系と人との
つながりが見られる場所として
注目されている。

百年たってもこの
天然杉たちは
あまり姿を変
えることもなく
立っているんだ
らうなあ。

百年、わづか
三万六千五百日。
一日もあ3秒かに
たたくない。

33本の天然杉には
昭和63年に
国有林の職員
によって名前が付け
られた。

火災杉
縄文式火焔
土器を連想
させる。

街道の雰囲気

この高い梢のてっぺんまで
水も吸い上げ、はこぶ
ことのできる不思議。

段ノ谷山は真南向きの斜面。
林内の照葉樹の葉っぱは
日の光をはじいて風が吹く
たびにキラキラ光る。
まるで、向かい合う太平洋の
さざ波を映しているようにも思える。

林内にもシカの
食痕が数多く
ある。
シカの大木や
リョウブもガシガシ
樹皮を食べてい
る姿が痛々しい。

この森に残る33本もの天然杉たちは
神様から与えられた自由に生きていい
時間を植物として一本一本がのびのびと
自分の思うままにこの形を作ってきたん
だろうなあということを感じる。
自分も、動物として与えられた限られた
時間と呼吸ののびのびに会いたい人や
見たい景色に出会って生きているうちは
できるかぎりせままりたいなあと思う。

大迫力!! 天然杉群

何万年前は海
の中だった。
千年前(約100万年前)は
生きた木が
死に変わり
ここに暮らす
生きものたちは
輪廻のらせんと
めぐりつづけて
いるのかもしれない。

常に変化している
自然の中で風景
との巡り合いは
たど一歩のこと。

天然杉の小道

豊富な柔杉

アカガシの葉っぱが
深くつもっている

やがて土に還る
古い切り株を
じっと見ていると
時間のことや
生死のことや
いろんな事を考える。

双子二代杉

ハロー杉

この木は?

木の名前を覚える
樹木名板が多数。

軌道跡

登山口まで
国道5号より 16.5km
(A) クラート 8.6km
(B) テートあり
ゲートより 5.0km

ウンセンツツジ

サカキ通しの
クスノキ

登山口

グローブ杉

段ノ谷道

大地に根を下し
屹然として大空に
向かって奮然と
いる姿は、お前も
かくあれと教えて
くれる。
(坂村真臣)